

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	S.S.	学部・学科	国際教養学部
学年	2年	派遣国	米国
派遣大学	ニューヨーク州立大学ストーンブルック校		
期間	2023年8月21日～2024年1月21日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同 = ○ 部屋にあるもの = ○					
トイレ	○ 2つある	シャワー	○ 2つある	洗面所	○ 2つある	
キッチン	○	冷暖房	○	冷蔵庫	○	
滞在費	約 (80 万) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃 \$5,583.00 ドル					
移動	(徒歩) で、約 (10) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	50000 円	Meal plan、外食、自炊
学用品購入費	1000 円	ノート、ペン
交通費	2000 円	LIRR チケット
交際費	10000 円	カラオケ等
その他	円	

合計

約 60000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

夜遅い時間に寮の外に出るとほぼ毎回大麻の匂いがします。

私自身がトラブルに巻き込まれたことはありませんが、学内であっても夜は友達に送ってもらっていました。

昼間はとても安全で、生徒による見回り制度もあるため治安は良い地域だと思います。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学／その他（ ）		
加入期間	（ 5 ）ヶ月間	保険料	（ 11300 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	United Health Care		
加入期間	（ 5 ）ヶ月間	保険料	（ \$1,073.63 ）ドル

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (Stonybrook)

ロングアイランドはシティから若干の距離があり、娯楽が少ない。車があるとないとでは雲泥の差があり、留学生たちにとっては多少不便な場所である。

ポートジェファーソンなど港町が多く、観光地はある。

シティまで出れば有名なタイムスクエアから自由の女神像など、ニューヨークといえばイメージするような観光地が多くある。

夏は日本よりも過ごしやすく、冬は雪が降りとても寒い。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ニューヨーク州立大学ストーンブルック校	所在地	Stony Brook
最寄空港	JFK	空港からの距離	約 50 マイル
空港 ⇄ 大学	(エアトレイン Jamaica 駅 ⇒ LIRR Stony Brook 駅) *移動手段		
学生数	約 26000 人	留学生数	約 3600 人
学部	環境学、建築学 地域学、民俗学・女性学・ジェンダー研究 コミュニケーション、コンピュータ、教育学 工学、言語学・外国語 文学、生命科学 数学・統計学、国際関係 学際研究、哲学・宗教学 化学、地学、物理学、心理学 行政学・ソーシャルワーク、人類学 経済学、社会学 演劇、アート、音楽 健康科学、ビジネス、歴史学		
	*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	特になし		
	*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		社会学講義 ジェンダー社会学講義	インターンシップ	社会学講義 ジェンダー社会学講義	
午後	宗教学講義 哲学講義	インターンシップ	宗教学講義 哲学講義		

② ()月～()月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前					
午後					

3. 履修内容

科目	Islam		
履修期間	9月～12月（2023年度）	単位数	3
授業内容／形態	コーランに含まれるイスラームの啓示の主な特徴と、それがイスラーム世界の主要な精神的、知的、法的、社会的な教えや制度に与えた影響について学ぶ。コースの最後には、現代世界におけるイスラームについて考察する。授業形態は一斎授業、学生数約40人。		
成績	C+		
YCU 振替予定	科目	イスラーム地域史 B	
	単位数	2	
	担当教員	山崎和美先生	

科目	Sociology of Gender		
履修期間	9月～12月（2023年度）	単位数	3
授業内容／形態	アメリカ社会における女性と男性の歴史的・現代的役割、男女関係の変化、女性の解放と関連運動などジェンダーを社会学の観点から学ぶ。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	ジェンダー論	
	単位数	2	
	担当教員	横山道史先生	

科目	Technology and Modern Life		
履修期間	9月～12月（2023年度）	単位数	3
授業内容／形態	プラトンやソクラテスといった哲学者の考え方を学び、現代の技術と結びつけて考え方を発展させていく。哲学の思考を読み解くだけでなく、その思考を引用したうえで自分の考え方を展開させていく。 授業形態は一斎授業、学生数約40人。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	現代思想	
	単位数	2	
	担当教員	宇田川尚人先生	

科目	Introduction to Sociology		
履修期間	9月～12月（2023年度）	単位数	3
授業内容／形態	社会学の理論と方法に重点を置いた、社会学の一般的な入門書。社会学者が人間の行動や社会を分析する方法について、何が特徴的であるかを学ぶ。社会学の視点と他の社会科学の視点との違いが強調される。また、社会学者が自分たちの考えの妥当性を検証するために用いる方法やデータの種類にも重点を置いている。授業形態は一斎授業、学生数約250人。		
成績	B		
YCU 振替予定	科目	現代社会論	
	単位数	2	
	担当教員	角田隆一先生	

科目	Internship		
履修期間	9月～12月（2023年度）	単位数	3
授業内容／形態	日本語の授業を受けている他学生と日本語で会話をするTAアシスタント。 一人から三人まで、それぞれ30分のセッション。		
成績	S		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養学部留学科目A/B)	
	単位数	2(×2)	
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

私はアメリカ留学で、何よりも英語を話すうえで必要であった自信を取り戻すことができました。「私の英語、単語分からなかつたりして分かりづらいよね。ごめんね」と現地の友達に話したところ、「変じゃないよ。変だったとしても誰も笑つたりしないし、一生懸命な人を笑うやつらは相手にしなければいい。」と伝えてくれた経験が印象に残っています。また、人間関係のトラブルが生じた際は、「嫌なことは嫌というべき。そう感じたならば自分を尊重する行動を取らないといけないよ。私たちも君の盾になるから。」と言ってくれる友人もいました。現地の人たちは大雑把であったり、強気であったりというよりは『自分は大切であり、尊重されるべき個人である』という意識が日本より強いように思いました。私自身、留学前と後ではそういった自身を尊重するための意思決定をよりできるようになったと感じます。

留学前はアメリカという国は人種差別に対して日本以上に厳しいものだという認識をしていましたが、留学中に感じたことは少し違っていました。これは私の通っていた大学に限った話ではないと思いますが、日常の話題の中でアジア人や特に黒人にに対する人種差別的なジョークや言葉はよく聞きます。私の現地の友人には限りますが、例外なく「黒人とは付き合えない」と言い、それ以上に「親から黒人だけとは付き合うな」と言われている、という子が多かったです。見た目の話でいえば、私もそうですがアジア人はアジア人のコミュニティにより、白人は白人と、黒人は黒人といった形でおおまかに皆固まっていたように思います。差別、区別が日常的にあるからこそ、それが表立って助長されてしまわないように社会的には厳しく言われるのだと感じました。現地に住まない私の言えることは少ないので、事情の複雑に絡み合ったこの問題は全員が当事者である故にあっさりと解決はできないのだろうと思います。

SBU は留学生のための支援室があったり、日本人講師の方にコンタクトを取ることができたりなど、留学生に最大限充実したよりよい経験を積んでほしいと思っていることが伝わる場でした。また、現地の学生でアニメや漫画といった文化のおかげで日本が好きだという人が多くいて、私の知らない日本をプレゼンしてくれる人もいました。治安や食文化など様々な要素がありますが、毎度アメリカにいる状況で自分の国をまた好きになる実感がありました。

(2) 今後の展望

*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

今回の留学の経験を生かして、将来的な展望としてアメリカでの就職を目指します。私の見たアメリカは「ニューヨークの学生」というとても狭い範囲でしたが、私は現地の方々のマインドが好きで、私に合っていると感じました。

そして二つの理由として、現地学生の語学力になります。現地学生の半数は移民二世のような親が海外から移ってきた人であり、そうでない人々もまた高校などで他の国の言語を学び、話せるレベルまで語学力が磨かれていました。現在の私は、帰国後3月に受験したTOEICで900点超えできるレベルまで英語のレベルが上がりましたが、アメリカにいれば二か国語を話せることはアドバンテージにはなり得ません。

そういう身をもって体験をすることができたからこそ、この日本語と英語を個々の能力として扱うのではなく、二つの柱をつなぐ役割を持つ企業に就職出来たらと考えています。今現状の能力だけで満足することのない将来のために、帰国してから現在はアメリカで使える資格の勉強を始めており、VISAなど課題は多くあるものの、降ってくるチャンスを逃すことの無いようにと思っています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

留学中の目標ややりたいことの計画を先延ばしにしてしまうと現地で知り合った日本人留学生など他人と比べて無意味に焦ってしまう状況に陥りやすいです。特に私の留学先であるアメリカではまとまった休みの期間が多くあるため、休みの期間中に様々な場所に旅行をする友人たちを見て、自分の予定の空き具合に不安になりました。平日の暇な時間帯もそうですが、「何もすることの無い」状況に気分が落ち込んでしまう友人もいました。「なんのための留学なのか」という軸を忘れないでいることが、留学を自分のものとして充実させるうえで重要だと感じます。

学校内外で共通して言えることは、「助けてほしい」「何をしてほしい」と自分から声をあげていかないと誰も助けてはくれない、逆に言えば声をあげれば必ずといっていいほど助けてくれる人はいるということです。何もかも他人に頼り切りな状況は避けるべきだとは思いますが、誰かを頼ること自体は恥ずかしいことではないと思うので勇気を持って周囲の人たちと交流をしてほしいです。私も力になりたいので、困ったことが無くても気軽に連絡を下さい。